

令和元年度第2回伏見区基本計画推進区民会議 会議録

日時 令和元年 10 月 30 日

午前 10 時開会 午後 11 時 45 分閉会

場所 伏見区役所 1 階ホール

次 第

1 開会

区長あいさつ

馬屋原区長から開会のあいさつを行った。

- ・ 冒頭に、東日本を中心に記録的な被害をもたらした台風 19 号によりお亡くなりになられた方々の、御冥福をお祈りし、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。京都市では、市民の皆様の御理解を得て、全庁を挙げて支援に取り組んでおり、伏見区役所からも 1 名、茨城県水戸市に職員を派遣し、支援活動を行っている。今後も、被災地に寄り添い支援して参るので、御理解をよろしくお願い申し上げます。
- ・ 座長の橋爪紳也先生並びに、副座長の村井信夫会長をはじめ、各界各層のリーダーの委員の皆様には、日頃から、それぞれの分野で、地域のまちづくりに御尽力いただくとともに、広く伏見区政、京都市政の推進に御理解・御協力を賜り、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。
- ・ 伏見区基本計画の策定から 9 年目を迎え、計画期間も残り 1 年半を切った。京都市全体のまちづくりの方針である「京都市基本計画」も残る計画期間は 1 年半であり、本会議の村井副座長には、京都市社会福祉協議会顧問、京都市市政協力委員連絡協議会代表幹事として、「京都市基本計画審議会」の委員として参画いただいている。
- ・ 前回 6 月の区民会議では、令和 3 年度からの新たな伏見区のまちづくりの指針となる「次期伏見区基本計画」の策定方針についてご議論いただいた。本日の会議では、次期計画の骨格部分とも言える、伏見区の将来像や基本目標の在り方などについて、ご意見・ご提言をいただきたい。
- ・ 新しい令和の時代を迎えて約半年が過ぎ、令和に込められた「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という思いを伏見区から実現するため、伏見ならではの魅力や文化を基軸としたまちづくりを一層深化・加速させていくことを決意する中で、区役所としても、「伏見区基本計画」に示した、伏見区の将来像の実現に向け、残る計画期間、山本深草担当区長、村中醍醐担当区長とともに区役所、支所職員一丸となって、安心安全な魅力あふれる伏見のまちづくりに、全力で取り組んで参るので、皆様方の変わらぬ御理解御協力をお願い申し上げます。

座長あいさつ

議題の審議に先立ち、橋爪座長からあいさつを行った。

- ・ ラグビーワールドカップが開催され、ラグビーが盛り上がっている。スポーツを通じて、日本に世界の注目が集まるのは誇らしいことである。今後も 2020 年には東京オリンピック・パラリンピック、続く 2021 年には、ワールドマスターズゲ

ームズ関西が控えている。ラグビーワールドカップでは、開催期間が1か月超に及ぶため、海外からの観光客が長期間滞在、周遊することが多く、経済効果は4,300億円と言われている。

- ・ 訪日外国人観光客数は2018年で3,119万人、2030年の政府目標は6,000万人になっており現状の倍近くを受け入れられる体制を整えなければならない。また、住んでいる人と訪れる人の共存が図れるようオーバーツーリズムの課題も解決していかなければならない。
- ・ 先々週、視察で訪れた北欧にあるデンマークの第2の都市オーフスは、人口25万人程度であるが、およそ2割が大学生で、平均年齢が28歳と非常に若い。ただ、大学卒業後、まちを離れてしまい定着につながらない課題があり、伏見と状況が似ているのではないかと感じている。伏見区も龍谷大学など大学が多くあり、人口1,000人に対し大学生が86人を占め、他都市と比べても高い数値になっている。自宅から通学している学生も多く、全ての学生が伏見区在住というわけではないが、次期伏見区基本計画を考えるうえで、大学・学生の力も活かした連携が重要になると実感している。
- ・ 本日のこの会議の場で、皆様から活発なご意見を出していただきたい。

2 議題

「次期伏見区基本計画」の構成について

資料1「次期伏見区基本計画」の策定について

資料2「次期伏見区基本計画」の検討にあたって

資料3「次期京都市基本計画」における重点戦略イメージ（たたき台）

について、事務局（川本企画課長）から説明。

<質疑>

馬場委員

- ・ 伏見は歴史、文化が豊富なまちである。そういったことを育める「伏見歴史・文化資料館」のような施設をつくっていただきたい。

事務局（川本課長）

- ・ 京都市全体では、歴史資料館があるが伏見区にはない。次の世代に歴史・文化を伝えていくことは非常に重要だと考えている。ご承知のとおり、京都市の厳しい財政状況で市が新たな施設を建設することは難しい。ただ、定期的な展示会の開催や情報発信などの取組については、次期計画検討の参考とさせていただく。

橋爪座長

- ・ 伏見のまち全体がミュージアムのようなコンセプトでまちあるきの中心となる施設があれば良い。行政単独では難しいが、地域・民間事業者との連携でできれば良い。

加藤委員

- ・ 次期伏見区基本計画の議論を深めるための提案を4点させていただきたい。1点目は、何がまちづくりの根、幹、葉、花なのか。図示することで個々の取組がつか

がってどういった成果を得ていくのか目指すものの関連性を示せればと思う。2点目は、後継者づくり。まちづくりにも子どもを育てる視点が必要。文化や教養豊かな区民が多くいる伏見の特徴を活かしたい。3点目は、障害者の方とのコラボ、軽度認知症、引きこもっている方への『訪問』や『誘い出し』を中心とした地域活動の推進。4点目は、ボランティア活動が低迷する中、住民自治、住民主体のまちづくりを育む仕掛けが大事。大阪府では、社協の広報誌を高校生が主体となって記事づくりをするなどおもしろい取組もある。伏見でも取り入れられないか。

橋爪座長

- ・ 次期伏見区基本計画の策定期間は5年と、これまでの区基本計画より短期であるが、ご指摘のとおり中長期の視点を見据えることも大切である。

矢部委員

- ・ 我々の学区内で起きた京都アニメーションの事件を受け、京都府が管理する寄付金の使途として、取り壊し予定の社屋の跡地にお花畑のような、追悼するものなどが検討できないかと思っている。

事務局（田中室長）

- ・ 寄付金の活用方法については、京都府で検討されるものであるが、被害者、遺族の支援のために使われることが基本になるように伺っている。また、跡地については、京都アニメーションの所有地であり、どうするかはまだ検討中と伺っている。

菱田委員

- ・ 実家が商店を営んでいる。小売店として、ごみ袋の有料化への対応は、レジ袋削減の取組で2円引きを導入した。多くのお客様からレジ袋不用の申し出があった。環境への取組の一步として続けていきたい。

谷内口委員

- ・ 環境に対する取組は、専門施設や行政だけでは難しい面があり、市民、民間事業者の連携が必要である。また、やはり経済がまわらないと取組が続かない。個別に取り組むのではなく、それぞれが関わりあって経済的にも循環していくまちづくりの仕組みを作れば良い。

岩井委員

- ・ 醍醐コミュニティバスであるが、運行から15年が経過し、11月17日には、800万人乗車記念イベントを行う。これまで多くの困難があった。現在、利用者の8割が敬老乗車証で乗車しておられるが、残り2割の現金収入だけで運行することは厳しく、多くの企業から協賛金を得て経営しており、様々に苦勞しているが、村井会長がおられなかったら、ここまでこれなかった。これまでも敬老乗車証交付金の増額を市に対して求めているが、安定的な経営のために引き続き市の協力を求めたい。乗客からは「バスがなかったら生活できない」との声もいただいております。その思いを忘れずに継続して運営させていきたい。

馬屋原区長

- ・ 地域住民主体による自立した地域コミュニティバスは、全国でも少ない中で、醍醐コミュニティバスは頑張っていたらいい。次期伏見区基本計画においても持続可能性の視点が重要と認識しており、持続に向け、民間事業者との協働など区としても応援していきたいし、所管局にも要望していきたい。

三木委員

- ・ 20代の頃から区民会議に委員として参加させていただいている。若者の視点として、14才から22才までの戦略が重要。統計資料の生産年齢は15～64才であるが学生は22才程度までであることに着目した施策が必要。その間、若者がどう地域で過ごすか。いま学校に関わっていると若者の学び方が変わってきていることを感じる。地域は何を教えたいのか、地域はどんな若い人を育てたいのか。今の若者は、地域で汗をかいている大人の背中をほとんど見ていない子が多く、苦勞が伝わっていない。若い人が地域の中で自分も汗をかける、貢献できる、という小さな成功体験をどこで得るか。そういう機会が伏見で得られるなら長期的に見れば、若い人が伏見に住む縁となるのではないかな。

横江委員

- ・ 伏見青少年活動センターでは平日の平均利用者は40～50人、多いときで100人程度の中高生が訪れている。小学生より少し上の世代である思春期世代に目を向けた取組も必要と感じている。中高生は、世代的に制度の狭間に陥りがちである。学校という枠組みを超えてどう支援していくか次期の計画に反映できれば良い。

村瀬委員

- ・ エコまちステーションにはよく頑張ってもらっている。ごみ減量など京都市は熱心に取り組んでいる。子どもが正しいルールを親に伝えるようなそういう環境をずっと続けていけたらいい。ごみの分別クイズでも大人より子どもの方が正解率は高い。教育は重要と実感している。

西庄委員

- ・ コミュニティの希薄化について。自治会員の減少がネック。京都市は平成24年4月に条例を制定して支援しているが、加入率は右肩下がりで70%弱。もう少しインパクトのあるPRを考えてもらえないか。淀学区では小学校を中心に働きかけており、淀地域に住んでいて良かったと思ってもらえるようにしていきたい。

事務局（田中室長）

- ・ 条例制定を機にモデル学区を設定し、地域コミュニティの活性化の取組を推進しており、効果的な取組については、水平展開していくようにしている。自治会加入率の低下は、重要な課題と認識しており、インパクトのあるPRなどの取組については、さらに検討していく必要がある。

土田委員

- ・ 儒教的な礼儀が身につけていない一部の教員がいる。やはり教員は身をもって子どもたちの模範となしてほしい。

寺内委員

- ・ 様々な地域の集まりに参加するがどこでも高齢化が目立つ。このままでは、活動の持続性が危ぶまれるが、一方で、高齢者が元気なので後に継いでいく動機が弱い面もある。結果的に、若い担い手が役職を担って育つ機会がない。一方で体の弱った高齢者もいる。そういう方達への例えば、電球を変えるレベルの生活ニーズを満たすサポートが必要であり、そういうことをできる人の組織化、繋がりをつくれなにか。

橋爪座長

- ・ 今日いただいたご意見については今後の検討材料にしていきたい。今回の会議では、次期区計画検討の枠組みを提示し、大きな変更はせずに、現行の計画をベースにして検討していくことを確認させていただいた。
- ・ 京都市の基本計画の策定と並行して伏見区の基本計画を策定していくため、整合性は必要であるが、伏見区独自の特色ある施策も盛り込みたい。一方で、多様な地域ごとの特性も取り入れたい。また、文化庁移転をきっかけとした文化を基軸とした分野横断の連携、世代横断の連携、地域文化力の視点も重要である。
- ・ SDGsの理念の「誰一人取り残さない。」という考えは、「誰でも充足した人生を送れること。」と読み替えられる。持続可能性は環境だけでなく、まちや人においても重要な要素である。レジリエントであるが、災害に強いまちになるよう粘り強く対応していくことが重要。とりわけ淀川等の水辺や舟運においては、にぎわいづくりと防災の両面の視点が不可欠である。

<情報提供>

大濱委員

- ・ 伏見連続講座を実施する。中小企業はまちづくりにあまり関係ないと思われるかもしれないが、まちづくりに関わっていく宣言をしている。中小企業家同友会としては、これまでまちのためにより経営者を育てようという方針で勉強会などをしてきたが、今後、同会が地域の中で受け入れられていくための取組を積極的に進めていく。

谷内口委員

- ・ クリーンセンター併設のさすてな京都に当協会も参画している。ごみ処理の最新技術や歴史から環境に関する知識を学べる。シャトルバスも出ているのでぜひ来てほしい。

矢部委員

- ・ JR複線化に関する避難路について、京都市にも話をしているが中々、進んでいない。今後も継続した検討をお願いする。

3 閉会

副座長あいさつ

村井副座長から閉会のあいさつを行った。

- ・ 10年前にも京都市の基本計画審議会に参画し、今回も審議会委員に参加している。できるだけ伏見のことを市の計画にも反映したいと思っているが、分野が多岐にわたるため色々と難しい面もある。
- ・ 伏見区の基本計画では、橋爪座長もおられるので、広い範囲でのリーダーシップをとっていただき、しっかりまとめていただけたらと思っている。いつも申し上げていることだが、小さなお子さんからお年寄りまで「伏見に住んでいて良かった。」と喜んでいただけるまちを皆様と一緒に作っていきたい。
- ・ 最後に締めというわけではないが、馬屋原区長からも一言あればお願いしたい。

馬屋原区長

- ・ 熱心にご議論いただき感謝する。次期伏見区基本計画策定にあたって盛り込むべきキーワードが出てきた。加藤委員からいただいたような何が根、幹、枝なのか。政策は分野ごとの縦割りにならないよう融合させ、区民の皆様にはわかりやすく関連性を示していきたい。また、三木委員からいただいた次代を担う14歳から22歳までの若者に対する社会投資についても重要である。加えて、伏見区ならではの特色も次期計画に盛り込んでいきたい。
- ・ ハードに対するご意見もいただいた。財政的に厳しい面もあるが、民間事業者との協働や企画など工夫が重要である。例えば、民間企業の美術館との連携、また大手筋商店街では、民間型観光案内所・生涯学習機能を持つ伏見館を運営していただいている。地域企業との連携・協働も今までない大きなポイントであると考えている。
- ・ 良いご意見をたくさんいただいた。地域や関係団体ごとのご意見も非常に重要であり、しっかりと声を聴き、次期伏見区基本計画に盛り込んでいく。